

A long time ago in a galaxy far, far away...



ジョージ・ルーカス監督・監修

日本語版

20世紀フォックス提供・松竹株式会社・配給/ルーカス・フィルムLTD作品

スター・ウォーズ

主演マーク・ハミル●ハリソン・フォード●キャリー・フィッシャー
ピーター・カッシング
アレック・ギネス

脚本・監督

製作

音楽

ジョージ・ルーカス ゲイリー・カーツ ジョン・ウィリアムス

パナビジョン® テクニカラー®

〈オリジナル・サウンドトラック=20世紀レコード〉

原作ジョージ・ルーカス(角川書店刊)

第50回アカデミー賞7部門受賞!!

★音楽賞 ★美術賞 ★衣裳デザイン賞 ★編集賞 ★録音賞
★視覚効果賞 ★特殊音響効果賞



**STAR
WARS**

スター・ウォーズ



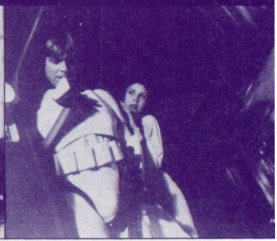
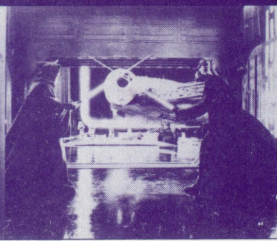
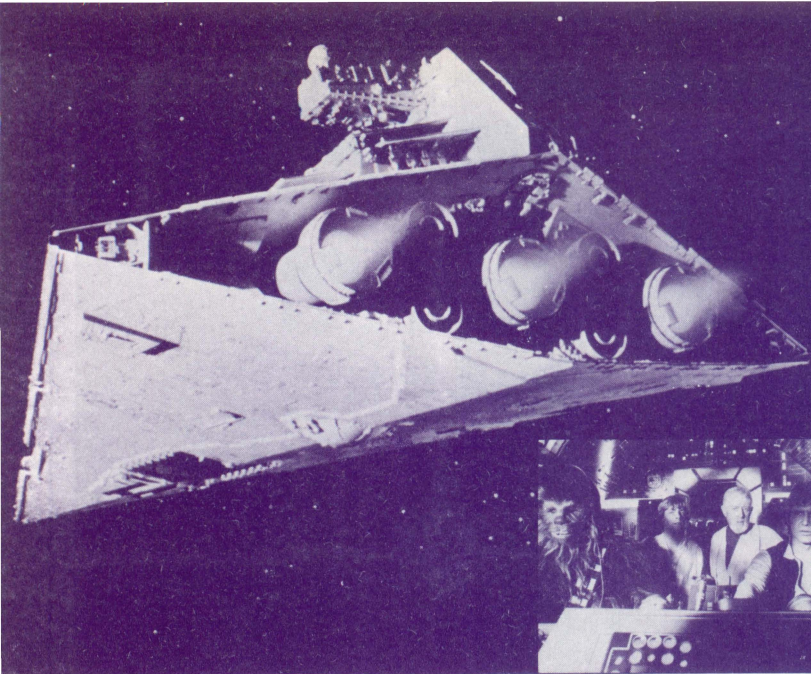
★スタッフ★

日本語版監修……………ジョージ・ルーカス
監督・脚本・原作……………ジョージ・ルーカス
製作……………ゲイリー・カーツ
音楽……………ジョン・ウィリアムス
撮影……………ギルバート・ティラー

★キャスト★

ルーク……………マーク・ハミル
ハン・ソロ……………ハリソン・フォード
レーア・オーガナ姫……………キャリー・フィッシャー
モフ・ターキン……………ピーター・カッシング
ベン・ケノービ……………アレック・ギネス
C-3PO……………アンソニー・ダンエルズ
R2-D2……………ケニー・ベイカー

(上映時間=2時間1分)



★ぼくらの「夢」が帰ってくる！

全米で配収1億8500万ドル、全世界で2億5000万ドル、映画史上最高の興行記録を引っ下げて、いまあの「スター・ウォーズ」が帰ってくる。ルークに、ハン・ソロにそしてC-3PO、R2-D2に会えるこの日を、どれほど待っていたことであらう。

そう、「スター・ウォーズ」こそ、ぼくらにとって映画の新しい幕明けであつた。宇宙という無限の世界を舞台にくりひろげられるファンタジー・アドベンチャー。それは映画館が「夢のおもちゃ箱」であることの再確認でもあつた。永遠の映画少年ジョージ・ルーカスが見せてくれる夢のひとつとは、遙か遠い世界の出来事でありながら、ぼくらを少年のころへと帰帰させ、甘ずっぱい郷愁のようなものをさえ引き起こさせてくれたのだ。

この映画の出現以降、一時期、アメリカの映画界はSF一色で塗られた。「ブラック・ホール」「スター・トレック」「エイリアン」「アウトランド」「スパーマン」……しかし、どの一作たりとも「スター・ウォーズ」ほどのフィーバーには、なりえなかつた。そのヒミツとは？

★壮大なロマンと魅力のキャラクターたち

「スター・ウォーズ」には、まず物(ロマン)語があつた。全宇宙を支配しようとする帝国。そして、その圧政に抵抗する反乱軍。この軸をめぐる、さまざまなキャラクターが、からんでくるのだ。「死の星」の機密をかぎつけるヒロイン、レーア姫。(彼女はまたベル・エポック期のアメリカ映画のように、男まさりのジャジャ馬である。)悪の権化のようなダース・ベダー。宇宙の密輸船長ハン・ソロと、その片腕チューバッカ。そしてジェダイ騎士団の生き残り、勇士オビ・ワン・ケノービ。そして忘れてはならないのが凸凹コンビのR2-D2とC-3PO。どこにでもいそうで、でもやはり「スター・ウォーズ」のなかにしかない彼ら。彼らこそが「スター・ウォーズ」の重要な財産でもある。さらには騎士ルーク・ス

カイウォーカー。この映画は彼の理力(フォース)が発揮されるまでの精神史でもあつた。「スター・ウォーズ」が以後、映画界に与えた特撮技術の影響、SFブーム。しかし、いずれもが「スター・ウォーズ」を抜くことが、できなかった理由のひとつが、ここにある。

★いま、なぜ日本語版か？

いまや「スター・ウォーズ」は20世紀の「オデッセイ」ともいえよう。世界中に愛され、その次の冒険が待たれている現代の神話。「スター・ウォーズ」において、初めて映画に伝説、古典が可能になったといつても言いすぎではない。20世紀のホメロス『ジョージ・ルーカス』が、この古典を全世界の7才から80才にいたる、すべての人に楽しんでもらいたいと願つたのも、当然のことと言える。ここにジョージ・ルーカスが、我々に送つてくれた嬉しいメッセージがある。

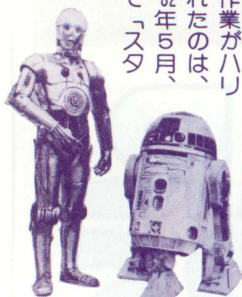
日本の皆様へ

私は「スター・ウォーズ」の日本語版製作に当ってオリジナルのイメージを損わないために、出演者の声を綿密に検討の上、それに最も近い声優を選びました。

この日本語版を御覧頂ければ、私の「スター・ウォーズ」が本当に理解され、面白さも一段と増すものと確信致します。

ジョージ・ルーカス

そう、この「スター・ウォーズ(日本語版)」は、ありきたりの年少向け映画とは、わけが違ふ。スパーでは完全に理解されなかつたセリフ、早い口調。これらの障壁がすべて解決されるのだ。もちろん、これらの作業がハリウッドにて行なわれたのは、言うまでもない。'82年5月、そのとき君は初めて「スター・ウォーズ」の本当のおもしろさに出会ったのだ！



●5月15日(土)大公開！

■特別鑑賞券(一般)1200円・(学生)1100円・(小人)900円絶賛前売中！

渋谷駅北口・青山側

渋谷松竹

TEL (400) 1477